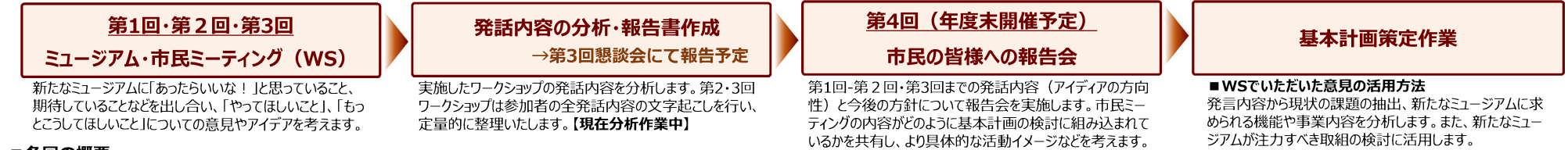


1 ミュージアム・市民ミーティング（ワークショップ）

(1) 実施概要

- 基本計画において、より具体的なミュージアム像を市民と協働して考えていくべく、地域や市民活動の視点にも着目し、市民とともに新たなミュージアムを考える取組としてワークショップ（WS）を実施。
- 1回目のワークショップは、これまでの市民ミュージアムや一般的な博物館、美術館のイメージに捉われず、「どんなミュージアムなら楽しいか」「どんなミュージアムなら行ってみたいか」「ほかの分野と連携するとどんな活動ができるか」など、自由な発想で新たなミュージアムを考える機会とした。
- 2、3回目のワークショップは懇談会でのご意見も踏まえ、市民ミュージアムのこれまでの活動や収蔵資料といった基本的な情報をワークショップ冒頭に説明を行った。そのうえで、現在川崎にはどんな課題があり、新しいミュージアムがどんな施設であればその課題を解決していくことができるかということをも具体的に考える機会とした。

■基本計画策定までの実施ステップ



■各回の概要

第1回ワークショップ（10月7日（土））	第2回ワークショップ（10月21日（土））	第3回ワークショップ（10月28日（土））
実施内容：「あったらいいな！」と感じている未来の市民ミュージアムを市民の皆さまが語り合い、意見を出し合う。 参加者：21名（川崎区幸区・3名／中原区宮前区高津区・6名／多摩区麻生区・8名、市外在住4名） 実施スタイル：ワールドカフェ方式を採用したワークショップ。居住エリアで5グループを結成。 WSで考えられた新しいミュージアムのキャッチコピーの一例 ➢「なないろミュージアム、7区巡る、繋がる、近づく」 - 川崎市にある7区を巡る、繋げる、近づけるというもので、7区をメインにしたもの。 - 親しみやすさも込めつつ、虹色の意味はバリアフリーや多様性を表現。 - 子どもから大人までが楽しめるミュージアムにしたい。川崎市のことを知りつつも、大勢の人が楽しめるものにしたい。 - ミュージアムという感覚を今までは違うものにしたい！違うものにして欲しい！頭を柔らかく考えて欲しい。 ➢「川崎市民もそれ以外の人も川崎を知って好きになる、人に優しい川崎市民ミュージアム」 - 展示も空間も、ボランティアの人にも働いている人にも、全ての人に対して優しいミュージアム。 - 体験型のミュージアムが良い。展示物をただ鑑賞するだけではなく、小学生から大人までが体験して楽しめるような体験型のミュージアムにしたい。 - 多様な方が川崎を好きになってもらえるミュージアム。 - 新生川崎を知る、体験する、そういうきっかけを与えられるミュージアムになってほしい。 ➢「川崎市民ミュージアムさん道」 - 前の日の夜からワクワク、道すがら楽しい、帰り道もハッピーにさせてくれるミュージアムとなるべき。 - 道という視点から、アートロード、アート商店街、アート街道というアイデアが出てきた。 - 参（さん）加・参（さん）画して、いろんな人が来て楽しい。関わる人の顔が見える。また太陽のSUN（さん）にもかかっている、楽しそうなイメージも含まれている。 - まさに開かれたミュージアムであれば、地元の人たち、道ゆく人たち、みんなが楽しめる、楽しんで来られるミュージアムになる	実施内容：新たなミュージアムへの期待や未来のミュージアム像を川崎市民の皆さまが語り合い、意見を出し合う。 参加者：18名（歴史文化・4名／ミュージアム関連・6名／クリエイター・4名／その他・4名） 実施スタイル：グループワークを採用したワークショップ興味関心に応じて4グループを結成し3回のセッションを実施。 WS内で出された各グループのアイデアの一例 「歴史文化」グループ：キーワードとしては「魅力的なソフトコンテンツを常に更新し続けるミュージアム」。常設展示は必要か？常設が毎回同じものでいいのか？ 「ミュージアム」グループ：通勤、通学の代わりというか延長で、ミュージアムに行くという仕組み作りができるといい。出勤する、有休を使って通う、ボランティア休暇の延長が新たな制度を企業とミュージアムが結んで、今日はミュージアムに行って作品を鑑賞する、歴史を学ぶなど、いろいろな関わり方ができる場所になればいい。 「クリエイター」グループ：人の育成がないとすべてのことがまならない。海外から見ても、「川崎市のミュージアムでは素晴らしい育成を行っている。川崎市に移り住もう」くらい魅力あるミュージアムのシステムを持つべき。海外には優れた育成プログラムが存在するので、市民ミュージアムがそういうところになってくればいいと思う。 「その他分野」グループ：「社会課題解決のハブになる」というのが一番重要だと思っている。解決すべき社会課題としては、「多様性」。2つめは、「川崎の資源の発掘」。川崎の人・企業・農家。いろんなことができる人がたくさんいるので、その人たちをつなぐハブ。	実施内容：新たなミュージアムへの期待や未来のミュージアム像を川崎市民の皆さまが語り合い、意見を出し合う。 参加者：17名（歴史文化・3名／街づくり・4名／アート・4名／専修大学・5名／見学・1名） 実施スタイル：グループワークを採用したワークショップ。興味関心に応じて4グループを結成し3回のセッションを実施。 各グループが考える新たなミュージアムのアイデア 「歴史文化」グループ：キーワードとして「行きつけのミュージアム」。道の駅のような場所として生活に落とし込めたり、地域の拠点になるような場所になり、市民の誇りになるようなミュージアムであってほしい。未来に向けて、子どもが自由に過ごすことができる寛容な場所として存在していけるといい。 「まちづくり」グループ：市民みんなが応援したくなる（応援する気持ちがミュージアムの核となる）ミュージアムになるといい。リゾート化してアーティストが住んだり交流できたりするような機能や、「育つ」ミュージアムとして周辺環境の緑地や、集う人が共に育つ場所になるイメージ。 「アート」グループ：DESTINATION PLACE MAKING。名称を工夫するなど、気軽に来ることができる場所にしていくといいのでは。博物館の内部が充実することが大切で、館長や学芸員といった人を育成し、常設展をしっかりとっていくことも大事。 専修大学グループ：アナログ・デジタルの掲示板で気軽に表現したり交流できる、マードミステリーと収蔵品を組み合わせるなどの新しい魅せ方を検討したり、駅からスタートするミュージアムなど、+αの機能を持たせてこれまでとは違う層へアピールしていく。



基本計画策定に向けた市民協働（ワークショップ等）の取組状況について

2 ミュージアム・市民アンケート

（１）実施概要

- ・より多くの市民から新たなミュージアムの整備に向けた取組についてご意見を伺うため、ワークショップに加えてWEBアンケートを実施するもの。
- ・川崎市の新たなミュージアムの方向性である「地域や社会の貢献を図るミュージアム／市民に身近なミュージアム／誰もが文化芸術に携わり、親しみ、楽しめる環境づくりのための取組の展開を図るミュージアム」に求められる要素を、文化芸術に対する市民の意識や関心別に調査する。
- ・回答集計にあたっては、普段ミュージアムの活動や行政からのアプローチに無関心な層からも回答を集めるため、チラシ等による広報のほか、アンケート会社に登録されているモニターの方へ直接通知を行う方法も併用する。

（２）実施期間

2023（令和5）年11月1日～11月14日（予定）

（３）実施方法

- ・WEBアンケートの回答フォームを作成。パソコン、スマートフォン、タブレットから回答が可能（QRコード読み取り）。
- ・募集サンプル数は、クロス集計を行うことを踏まえ、1,500サンプルを目標とする。

（４）周知方法

- ・チラシ、ポスター、市HP、市SNSによる周知
- ・アンケート会社登録モニターへの通知

（５）主な設問（性別、年齢等の基礎情報に係る質問も含め、全17問で構成）

- ✓ 普段から博物館、美術館や、歴史や文化、アートといった文化芸術に興味・関心がありますか？
- ✓ 普段、博物館や美術館をどのくらいの頻度で利用していますか？
- ✓ 博物館、美術館や文化芸術全般に関係する活動について、普段から行っていることはありますか？（ある場合、それはどのようなことですか？どのような分野ですか？）
- ✓ 「新たなミュージアム」では次のような機能を備えることを検討しています。あなたはどの機能が重要だと思いますか？
 - ☐ 収集保存 ☐ 資料修復 ☐ 調査研究 ☐ 展示公開 ☐ 教育普及 ☐ 交流創出 ☐ 人材育成 ☐ 地域貢献 ☐ その他（自由にご記入ください）
- ✓ 「新たなミュージアム」には、どのようなプログラムがあるとよいと思いますか？
 - ☐ 一般向けの教養講座やワークショップ ☐ 小さな子ども連れで参加できるプログラム ☐ 平日夜間の仕事帰りに参加できるプログラム
 - ☐ 展示物に触れたり、体感的な鑑賞ができる体験型のプログラム ☐ 学芸員や他の参加者と対話しながら見学できるプログラム ☐ 周りを気にせず、自分のペースで鑑賞できるプログラム
 - ☐ 被災収蔵品の修復や資料のデジタル化などの活動に参加できるプログラム ☐ 技術指導を受けながら展示関連の作品や自分の作品が制作できるプログラム
 - ☐ アーティストの作品制作に参加したり、協力できるプログラム ☐ その他（自由にご記入ください）
- ✓ 「新たなミュージアム」には、どのような交流の機会があるとよいと思いますか？
 - ☐ コレクション（収蔵品）を活用した鑑賞の場で、学芸員やアーティストなどと対話ができる機会 ☐ 展示物に触れるなど、様々な体験・体感の機会を他の鑑賞者と共有できる機会
 - ☐ コレクションカード（収蔵品を写真にしたもの）やデジタル化されたコレクションを活用し、学芸員やアーティストから制作技法などを学ぶことができる機会
 - ☐ 小さな子供連れで参加でき、絵を描いたり、音を出したりすることなどができ、自由な楽しみ方を通じて子育て世代同士で交流ができる機会
 - ☐ ミュージアムに設置してある工具や3Dプリンター等を用いて、誰かと一緒に絵画や木工などの作品を作ることができる機会
 - ☐ 地域の郷土史や生活習慣等を地域の人や研究会の方々から子供をはじめとした様々な世代に伝え、ともに学ぶことができる機会
 - ☐ 声を出したり騒いだりしづらい館内を、夜間にパーティーなどのイベントなどで活用し、普段ミュージアムに足を運ぶことが少ない人たちと交流ができる機会
 - ☐ その他（自由にご記入ください）
- ✓ 「新たなミュージアム」は、どのような地域・社会貢献に取り組むべきだと思いますか？
 - ☐ 地域の魅力の発信 ☐ 地域のにぎわいづくり ☐ 地域の自然や環境保全活動 ☐ 歴史や文化を活用したまちづくり ☐ アートを活用したまちづくり ☐ 社会問題や地域課題の解決
 - ☐ 地域経済への貢献 ☐ その他（自由にご記入ください）

（６）活用方法

- ・回答いただいた意見は、新たなミュージアムにおけるターゲット戦略や、それに対応した導入機能の明確化、具体的な事業活動の検討等における参考情報として活用する。
- ・回答の分析結果については、ワークショップ分析結果と同様に、第3回懇談会にて報告予定。

※ 基本計画だけでなく、その後の検討においても活用していくものとする。